

平成30(2018)年度 「住まいとコミュニティづくり活動助成事業」
(地域・コミュニティ活動助成) 活動中間報告

団体名

NPO 法人 旧鈴木家跡地活用保存会

活動のテーマ

庄屋屋敷の再生による多様な人の交流拠点化

9月までに達成できた事項(箇条書き)

- ・ 第1回 鈴木家ミニ見学会と再生プロジェクト説明会
7月14日(土) 10時から12時
弓道場の的場再生の趣旨説明と鈴木家の紹介、敷地内見学
次回以降の作業内容の確認
参加者 25名
- ・ 第2回 的場再生プロジェクト
9月1日(土) 9時から12時
作業用足場組立・保存古かわらの使用可否の選別
参加者 25人
- ・ 第3回 的場再生プロジェクト
9月8日(土) 9時から5時
痛んだ瓦の取り外し・腐食の激しい下地材の修復
参加者 19人

今後の活動予定と平成31年3月末時点の達成予定項目

- ・ 的場再生イベントは後3回(3日間)実施予定
第4回(10月6日)、第5回(8日)、第6回(9日)実施予定でしたが、台風21.22.24号の影響で作業指示できる大工さん、瓦屋さんの仕事が立て込み、中止。
現在日程未決定です。(大工さん、瓦屋さんの都合次第です。)
10月中には実施したいと思っています。
- ・ ホームページ作成作業
基本構成が完成し、コピー文章の校正に入っています。
10月末に立ち上げの予定です。
- ・ NPOパンフレット
ホームページ完成の後、ホームページの内容をパンフレットにする予定です。

NPO法人 旧鈴木家跡地活用保存会

活動のテーマ 庄屋屋敷の再生による多様な人の交流拠点化

助成対象活動に至った理由・背景

平成 22 年、庄屋屋敷跡地（4,300 坪）が屋敷内建屋 8 棟と共に浜松市に寄付され、公園として整備されることになった。

母屋と離れ屋、弓道場の射場と的場は老朽化と予算上の理由から撤去予定となったが、地域で改修、管理する事を条件に取り壊しを免れている。

情感ある伝統的日本家屋を地域の人が交流し、笑顔が生まれる拠点としたい。

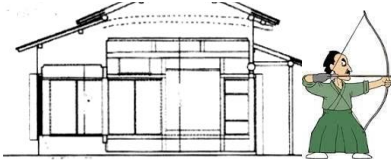
母屋の改修には数千万円が必要ですがすぐには取り掛かれないが、弓道場的場は規模も小さく、最初の目標として最適。市民参加で再生を行い、母屋再生の趣旨を多くの人に伝え、資金調達や、日常の活動参加へと結び付けたい。

的場再生イベントの 1 回目が行われました

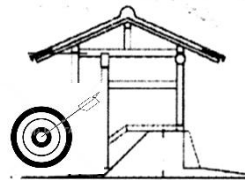
「的場」とは、弓道場施設(射場&的場)の 1 つで、旧鈴木家の建物群として遺されています。しかし、母屋などと同じく老朽化が激しく、このままだと崩壊の危険にあります。

そんなことから、これを再生しようとの活動がスタートし、その 1 回目として 7 月 14 日、説明会と見学会が行われました。

射場(現・掃一庵)

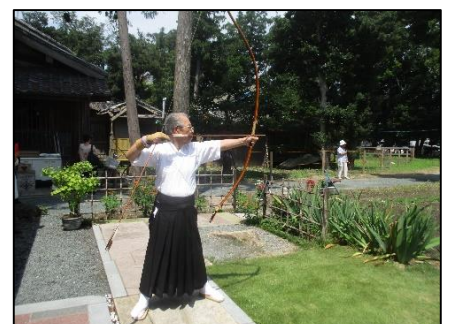


的場



訪れた人には受付で記帳をお願いし、主催者側から、旧鈴木家の歴史や的場再生の意義などについて説明を受けました

弓道の達人が、古式にのっとり
工事の安全を祈願して、弓を射て
くれました。初めて見る人も多く
みな驚嘆していました





来場した人たちは、同時に母屋や離れの見学をしました。皆さん、それぞれの傷みの激しさを目の当たりにして、修復の必要性を実感してくれたようです



的場再生イベントの2回目が行われました

30年9月1日(土)、1回目の説明会(7月14日)に続いて、実質的な作業が行われ、たくさんの参加者に協力いただきました。

天候不順の中でしたが、専門家の指導の下、古瓦の選別や足場作りなどを行いました

的場の裏に放置してあった、古瓦の使用可否をフコが選別し、瓦礫を含めて整理しました。

的場の周辺に足場を設置し、支え柱で仮の補強をし、周辺を片づけて、次回の作業に備えました



的場再生イベントの3回目が行われました

30年9月1日(土)の2回目(古瓦の選別や足場作り)に続いて、9月8日(土)に3回目が行われました。フコによる直接の作業によって、傷んだ瓦を外し、腐食の激しい下地部分の修復が行われました。

フコ以外の人たちは、指示に従い部材の受け渡しや運搬、瓦礫の始末など、その他大勢以上!の活躍をしました。作業はまだ続きますが、日程はフコの方々の都合と、天気のご機嫌によります。

